

(翻訳版)

2006年5月31日

〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1
宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部
教授 藤原顕殿

はやぶさミッションの素晴らしい成果に対し、*Science*編集長として藤原教授をはじめ研究者の皆様
に敬意を表しますとともにお祝い申し上げます。*Science*ならびにその発行元である米国科学振興協
会 (AAAS) は、世界に先駆けて同ミッションの成果に関する論文を弊誌上に掲載できますことを
光栄に思います。

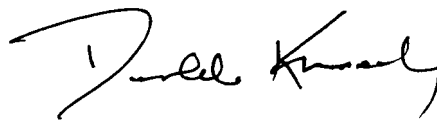
また、本日の記者会見を主催し、これらの胸躍る成果の発表にご尽力いただいた宇宙航空研究開発
機構 (JAXA) の皆様にも御礼申し上げます。

はやぶさミッションは、深宇宙に旅し、小惑星の試料を持ち帰る (サンプルリターン) という世界
初の試みです。はやぶさはパイオニアとして見事な成果を挙げました。2010年に小惑星イトカワの
試料を携えて地球への帰還を果たすことができれば、それはさらなる功績となるでしょう。帰還は
少し先のこととはいえ、今回の意欲的なミッションから、今後のサンプルリターンミッション計
画・実施にとってきわめて重要な数々の教訓を学ぶことができるのです。

本日、この記者会見の場で発表されるイトカワに関する豊富な科学情報は、太古の昔に誕生した小
惑星やそれらが形成された初期太陽系に関する重要な問題を解く助けとなるでしょう。また、これ
らの情報には実際的な意味合いがあります。なぜなら、小惑星が地球に接近する可能性があるやも
知れず、その構造と組成を知る必要が生じるからです。

子供から科学者まで、そして言うまでもなく映画監督も、小惑星にその想像力をかき立てられてき
ました。小惑星は何でできているのか、そしてどのような姿をしているのか。数十年もすれば、は
やぶさによって撮影されたイトカワの写真がきっかけになったという宇宙科学者が現れることでし
ょう。

今回、このように重要な研究成果を報告する場として*Science*をお選びいただき、世に発表いただく
ことに対し、重ねて御礼申し上げます。日本の宇宙科学研究のレベルの高さ、ならびに研究全般の
質の高さを証明する今回の研究を弊誌に掲載できることは光栄の限りです。



Donald Kennedy, Ph.D.
*Science*編集長

Office of Public Programs